SEMEX Walk of Fame staff 研修記

日本獣医生命科学大学　松下笑子

最初の仕事は到着翌日の夜０時から始まりました。仕事は semex のブースで展示される牛を２４時間体制できれいに保つことでした。何も分からず現地入りし、コミュニケーションは英語のみという中で、私は自分がやるべきことを理解するのに必死でした。まずは糞尿を素早くキャッチすることからでした。尾部が持ち上がってくるのを合図にバケツを持ってとんでいき、チップに落ちる前にキャッチするのです。間に合わない場合や同時に何頭も排便した場合は、素早く糞をかきとり、尾部や肛門に付いた汚れを拭き取りました。また立ち上がった牛にブラシをかけたり、尾をとかしたり。スタッフの方や一緒に仕事をしている方を気を付けて見るようにし、徐々に、リヤカーを持っていくゴミ捨て場の場所や、マットの掃除の仕方、床敷の作り方を段々と覚えていくことが出来ました。何日か経ってようやく慣れてきた頃、作業中に、どうしたらきれいに見えるかを少しずつですが考えられるようになってきた時は嬉しかったです。また、知らないことや初めてのことがたくさんあったので、作業の少ない時間帯を見計らって、スタッフの方に色々なお話をお聞きしました。分からない単語は辞書で引いてみたり、スタッフの方が別の言い回しをしてくれたりして、理解できた時は新しい世界が広がってわくわくしました。

semex のお手伝いをさせていただく中で、今まで国内の酪農で経験したことが無いことがいくつかありました。まず、牛を「she」と呼ぶことです。始めは、何のことか分かりませんでしたが、親近感があって素敵だなと思いました。牛を起こすときも「hey,girls」と声を掛けていました。それから皆オーバーオールを着ていること。また、小さな子供が牛を連れているところに多々出くわしました。これまででではあまり馴染みのない光景でした。それから、多くの人が牧場のオリジナルユニフォームを着ていて、1 番興奮したのがバックに「LUCK NOW」と書いてあるのを見つけた時でした。

ホルスタインのショウの日が近づいてくると、搾乳は夜中に行われるようになりました。これは、ショウのある日中の時間帯に、キレイに乳房が張って見えるようにするためだそうです。

↑搾乳の様子
暴れる牛はほとんどいませんでした。

↑ディッピング
黄色のものは初めて見ました。

それと合わせて、体格も立派に見えるように普段より多く給餌を行い、張りのある体に調整していました。飼料を多く給与すると、糞はゆるくなってしまうので、次第に顔に糞を浴びることが増えました。また、糞がゆるくなるのを防ぐために、rough な草と柔らかめの good な草を混合して給与していると教わりました。

←給与されている飼料
硬めと柔らかめが混合されているそうです。

毛狩りや整髪などが念入りに行われ、ショウに近づくにつれて牛はさらにきれいになっていきました。

↑整髪している様子
大変真剣な作業でした。

↑整髪後
こんなに格好良くなります。間違えてブラッシングで潰さないように少し冷や冷やしました。

尾のホワイトニングも見せていただきました。

←尾のホワイトニングの様子
揉んでしばらく置くと見違えるようにきれいになりました。

毎日体を洗う牛達ですが、排糞排尿は途切れなく行われるので、尾はすぐに茶色くなります。その尾を、薬剤を入れた袋の中で揉み洗いすると、尾はきれいな乳白色に戻りました。また、糞尿という言葉は飛び交う回数が非常に多いので、糞尿の英語版（２種類ずつあるそうです）を覚えたことは作業する中で大変役立ちました。

←洗いや毛狩り等で保たれる牛の皮膚は、布みたいな見た目と手触りでした。

ロイヤルでは毎日興味深いイベントが満載で、ずっと居ても飽きませんでした。朝方仕事が終わった時や、日中に仕事がない日等は、他のブースやショウを見たり、展示を見たりしました。牛と同じように羊のショウがあったことに驚き、また飼料にも賞があって、立派なコーンや乾草が飾られていました。また、私の好きなブラウンスイスのショウも見ることが出来ました。そこでいいなと感じた牛が表彰されて浮かれていましたら、ホルスタインのショウで一気に何十頭も並んでいるのを見て、全く分かりませんでした。瞬時に見極めて順位付けをする審査員の方々は本当にすごいと思いました。

↑ホルスタインのショウの様子
驚く数の格好良い牛が出ておりました。ライトアップや演出などもとてもわくわくさせられました。

↑競りの様子
迫力があって惹きつけられました！

最後に、この場をお借りしまして、出国から入国まで全てのご面倒を見てくださり、この貴重な機会を与えてくださった野澤組の皆様、現地で常に気に掛けて温かくしてくださった semex の皆様、英語がままならない私の代わりに接客に対応してくださり、沢山のことを教えてくださった各国からのスタッフの皆様、本当にありがとうございました。世界から集まった本当に美しい牛に会えたこと、産業動物を展示するためとして扱う初めての経験、英語だらけの生活に身を置けたこと、外国の酪農に関わることが出来たこと、全てが大変貴重な経験でした。この経験を大事にして活かせるように精一杯努力します。ありがとうございました。

↑シーメックスブースの牛達
彼女達が全員横臥すると、スタッフの人達は必ず「パーフェクト！」と言っていました。